

なただらふもんかく
那谷寺普門閣

種 別 国登録有形文化財 建造物
登録年月日 平成28年11月29日
所在地 那谷町

小松市山間部の新保地域にあった春木家旧宅を那谷寺境内に移築した農家建築。

春木家旧宅は、代々庄屋役を務めた豪農の邸宅であったとともに、親鸞から授けられたといわれる「光明本尊」を安置する道場でもあった。越前永平寺の大工によって三ヶ月の歳月をかけて建てられたといわれる。

主な用材は檜の大材を使用し、部屋境の帯戸や大黒柱などは頗る豪壮である。二階では小屋裏の構造を表し、見事な地棟に桁から梁を架け渡し、その上に束を立てて棟木・母屋を支え、木割は太く雄大である。

一階の間取りは加賀型農家の大規模なもので、入口側にある梁間いっぱいの「ニワ」と「オエ」は縦二つに割っている。

また、一階奥の仏間構えや正面に取り付けられた半鐘からは、春木家が宗教的に由緒の深かったことが感じられる。

加賀型農家建築の息吹を感じられる建物であり、建築当時の高い施工技術や意匠力を現在に伝える貴重な建物である。



那谷寺普門閣 外観正面（北面）



那谷寺普門閣 敷棟構造